

心豊かな子どもを育てる道徳教育

— 学校と家庭の連携を  
図りながら —

表郷村立表郷小学校

一、研究主題設定の理由

1 小学校学習指導要領の改訂の基  
本方針

2 本校教育目標の具現化

3 児童、地域の実態、父母、教師  
の願い

以上三つの観点をふまえ、道徳教  
育の充実、学校と家庭・地域社会  
の連携が重要であることから、本研  
究主題を設定した。

二、研究主題のとらえ方

「心豊かな子ども」像を

1 思いやりのある子ども

2 感動できる子ども

3 進んで実践できる子ども  
と設定した。

三、研究実践の内容と成果

研究主題に迫るために、指導の場  
を、①道徳の時間の指導、②日常生  
活での実践、③家庭・地域社会との  
連携、と大きく三つに分けて研究実

践をすすめた。

また、学校・家庭連携推進会議を  
組織し、地域社会、幼稚園、中学校  
との協力体制を築いてきた。

1 道徳教育に関する指導計画作成  
2 研究主題にせまる授業実践

道徳の時間を「より高められた価値  
に照らして今までの自分を見つめ  
させる時間」ととらえ、次の八点に  
ついて研究実践した。

(一)資料選定、基本的指導過程の確立

(二)自己を見つめさせる手だての研究

(三)道徳の時間と家庭・地域社会の連  
携の方法 (四)より高い価値を把握さ  
せるための手だての研究 (五)座席表

の活用と児童の反応分析による指導  
法の評価 (六)道徳指導案の形式の確  
立 (七)郷土資料についての研究(八)学  
習指導要領についての研究

(九)の郷土資料については、郷土の  
偉人、名所、旧跡だけでなく「地域  
の素材を用いた自作資料」も郷土資  
料と考え作成した。このことにより、  
児童が郷土に親しみを感じ、家庭内  
でも資料が話題となり、学校と家庭  
の連携を図る上で有効であった。

(三)の道徳の時間と家庭・地域社会  
との連携については、(1)指導過程に  
生かす事前調査 (2)我が子への手紙  
の作成依頼 (3)地域の人の声の便り  
(4)資料作成のための協力依頼など  
を中心にして連携を図った。道徳の

時間の終末で、親からの手紙を読ん  
だり、地域の人の声を聞いたりする



道徳の授業より

時の児童の目の輝きから、これらの  
指導方法は有効であったと考える。

3 日常生活での実践指導

「学校・家庭・地域社会での生活の  
中で、意図的・計画的に実践場面を  
設定し、道徳的行為をすることの喜  
びを味わわせ、進んで実践できる子  
どもを育てる。」ことを基本的な考え  
方とし、教育活動全体の中で指導し  
てきた。主なものとしては、七夕集  
会、PTA学年行事、よい子の手帳  
の活用、「親子で伸びよう表っ子運  
動」の展開、少年自然探偵団活動、  
JRC活動、緑の少年団活動などが

あげられる。

七夕集会、PTA学年行事等では、  
老人・父母と接する機会を設けたこ  
とにより、周りの人たちの愛情を感  
じ取り、いたわりの気持ちが高まった。  
また、基本的な生活習慣の定着につ  
いても、指導の成果が現れてきている。

4 家庭・地域社会との連携による  
指導

「学校・家庭・地域社会の役割を自  
覚するための啓発を行い、道徳教育  
に対する意識の高揚を図り、一貫し  
た指導を重ねるために連携、協力し  
望ましい道徳的習慣を培う。」ことを  
基本的な考え方とした。実践内容は、  
学校だより「福寿草」の発行、道徳  
の時間の公開、家庭の意識調査、保  
護者が記入し回覧する道徳ノート、  
地域モニター制等で、成果があった。

5 学校・家庭連携推進会議

PTA役員、少年自然探偵団世話  
人、表郷幼稚園、表郷中学校、表郷  
公民館、本校職員の五十五名で構成  
した。児童の主體的な実践、道徳的  
行為を実現させることを目的として  
年間六回、定期的に開催した。

四、今後の課題

1 学校・家庭連携推進会議、道徳  
ノート等から吸い上げた問題に素早  
く対応し、家庭とより信頼し合える  
ようにしたい。

2 道徳教育の指導計画の改善のた  
めの記録の累積が必要である。

道徳教育の実践を更に推進した  
い。